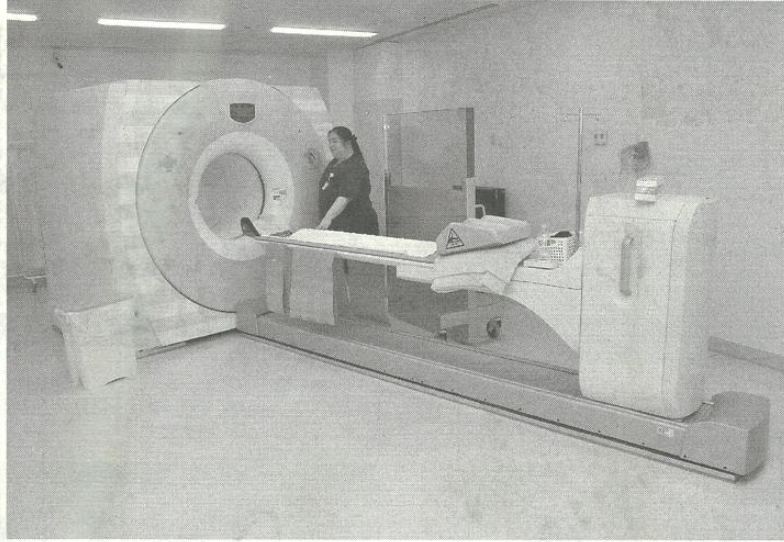


がん転移再発診断などに効果

室蘭市知利町の製鉄記念室蘭病院（松木高雪病院長）は「がん診療センター」に、陽電子放出断層撮影装置（PET）とコンピューター断層撮影装置（CT）が一体化した装置「PET-CT」を導入した。昨年12月から稼働しており、がんの転移再発診断や治療効果判定などに、早くも大きな効果を発揮している。

（松岡秀宣）

「PET-CT」導入、稼働



製鉄記念 室蘭病院

がんの診断、治療、予防に関する全ての設備を集約させた「国内でも先進的な施設」（同病院）となる「がん診療センター」は昨年10月に完成。PET-CTは同センターの主要装置の一つで、がんの早期発見、良性と悪性の区別や進行度合いの推定、がん転移の判定が可能になる一などの「利点がある」という。

導入したPET-CTは「高精度の定量性を維持し、低線量で高画質な画像を得られるのが特長」（同病院）となる最新鋭のタイプ。検査時間も20、30分と、これまでの装置より短縮されるため、患者の負担軽減にも

【PET-CT】陽電子検出を利用したコンピューター断層撮影技術。がん細胞がブドウ糖を取り込む特徴を利用して、ブドウ糖に近い成分（フルオロデオキシグルコース=FDG）を注射して全身を撮影し、がんの早期発見や転移・再発の有無、治療効果の判定などを確認する。PETとCTの各撮影画像を重ねることで、場所の断定や判別が紛らわしい部分など、より細部の病変発見も可能になる。

つながるといふ。一方、エックス線や電子線の出力が大きい放射線治療装置「リニアック」については、今年3月にも稼働（臨床稼働）する予定だ。

製鉄記念室蘭病院が導入した「PET-CT」。がんの転移再発診断や治療効果判定に大きな効果を発揮している。